

2019年2月7日

報道関係者各位

ふるさと名品オブ・ザ・イヤー実行委員会

**「2018年度 ふるさと名品オブ・ザ・イヤー」
9つの地方創生賞と3つの政策奨励賞の
入賞名品を決定**

-国内の22事業者・団体が集結し
地域に眠る名品、それを支えるストーリーを発掘する表彰制度-
<http://furusatomeihin.jp/>

「ふるさと名品オブ・ザ・イヤー」実行委員会(実行委員長:古田秘馬、以下「実行委員会」)は、地域の素晴らしさ・新たなチャレンジを地域以外の消費者をはじめ、より多くの方々に伝えることを目的とした表彰制度「ふるさと名品オブ・ザ・イヤー」において、応募総数172件の中から9つの地方創生賞と3つの政策奨励賞の入賞名品を決定しました。今後、実行委員会は最終審査会を行い、今般選定された入賞名品の中から、「ヒト」、「コト」、「モノ」、「政策奨励賞」の各部門において地方創生担当大臣賞を決定し、3月13日(水)に内閣府講堂にて大臣賞の発表と全ての入賞名品について表彰式を行います。

地方創生賞入賞名品

【ヒト部門】

提案者名	ふるさと名品名	都道府県	市区町村
山田水産株式会社	完全養殖に取り組む鰻師 ～ 加藤尚武 ～	鹿児島県	志布志市
株式会社しげや	むらへ再び灯りをともす80歳の起業家	岡山県	真庭市
UDON HOUSE	UDON HOUSEを立ち上げた地域の人々	香川県	三豊市

完全養殖に取り組む鰻師～加藤尚武～:

「鰻師」と呼ばれる人が、一切の薬品を使用せずに成魚まで育て上げるため、養殖池の側に住み込み、水温や水質、鰻の生育状況を絶えずチェックし、鰻の完全養殖に取り組んでいます。

むらへ再び灯りをともす80歳の起業家:

80歳の高齢者が、廃校活用プロジェクトの中心人物として地域をまとめ、食品加工会社を設立するとともに廃校となった中学校を食品加工場としてリニューアルし、地域に産業と雇用を生み出しています。

UDON HOUSEを立ち上げた地域の人々:

うどんを食べるだけでなく、うどんを自ら打ち、地元の農園を訪問し、生産者と触れ合うなど、今まで三豊には無かった新たな観光客向け体験型宿泊施設の皆さんです。

【モノ部門】

提案者名	ふるさと名品名	都道府県	市区町村
株式会社岩谷	紀州梅真鯛梅	和歌山県	串本町
のりまきのすけ	高槻トマトのまるごとキムチ	大阪府	高槻市
合同会社オン・ザ・ハンモック	食彩GARDEN三浦やさい栽培キット	神奈川県	三浦市

紀州梅真鯛梅:

和歌山県の特産品である梅を活用して養殖で育てた栄養豊富な地産フルーツ真鯛「紀州梅まだい」のほぐし身を、「梅を食べて育った鯛が、今度は梅に食べられたら面白いのでは!？」と、紀州南高梅の中に詰めた商品です。

高槻トマトのまるごとキムチ:

糖度5.5以上と甘く、いつまでたってもトマトの形を崩さないことが特徴の高槻トマトをまるごと漬け込み、深い味わいと、しっかりした食感を楽しめるトマトのキムチとなりました。

食彩GARDEN三浦やさい栽培キット:

冷凍マグロを加工する際、普段は廃棄されてしまう「マグロの残りカス」を有効活用した「マグロ有機肥料」入りの野菜栽培キットで、水産業と農業が盛んな三浦市をPRした商品です。

【コト部門】

提案者名	ふるさと名品名	都道府県	市区町村
鹿屋市農泊推進協議会	かのや100チャレ	鹿児島県	鹿屋市
糸島市	糸島マーケティングモデル	福岡県	糸島市
市川市	市川市×市川市国際交流協会(I.I.A.) 「シェフ先生」プロジェクト	千葉県	市川市

かのや100チャレ:

鹿屋市が抱える地域課題について、首都圏の中高生が独自の現状分析や調査結果を踏まえ、その解決策を鹿屋市関係者にプレゼンテーションし、提案内容で各参加校が競い合う政策コンテストです。

糸島マーケティングモデル:

地元事業者から商材を募集し、当該商品を地域の事業者と近隣自治体の女子高校生たちが共に商品開発や販路開拓、宣伝などのマーケティング活動を行い、持続可能な地域づくりを目指す取り組みです。

市川市「シェフ先生」プロジェクト:

食文化に精通した外国人を「シェフ先生」として市内小学校へ派遣し、調理とトークを通じて、多様な国籍の人々が互いの文化的差異を認め合い、共に生きてゆける地域づくりの推進を図る事業です。

政策奨励賞入賞名品

提案者名	ふるさと名品名	都道府県	市区町村
特定非営利活動法人 門真フィルムコミッション	奈須崇	大阪府	門真市
ウメダ電器	竹スピーカーKaguya	和歌山県	和歌山市
北海道美瑛高等学校	北海道美瑛高等学校における キャリア教育の実践	北海道	美瑛町

奈須崇:

2010年、大阪市内から門真市に居を移し、市民向けのワークショップ開催や、全編オール門真ロケの映画を作成する等、映画の力により国内外を問わず地域の魅力を伝え地域振興を目指しています。

竹スピーカーKaguya:

自然の竹を燻してそのまま使用しているため、一見すると竹のオブジェのようですが、本格的な音の良さに驚かれるスピーカーです。自然の竹を使っているのも、同じ形の商品がないことも特徴です。

北海道美瑛高等学校におけるキャリア教育の実践:

地域の高等学校が地域や北海道大学とも連携し、地理的・人的資源を最大限に活かして取り組むキャリア教育の実践です。地域の魅力に気づき、自分のキャリアプランに重ねながら、地域に貢献していく生徒を育てていきます。

<「ふるさと名品オブ・ザ・イヤー」実行委員会>

実行委員長: 古田 秘馬

幹事社(6社): 株式会社ジュピターテレコム(J:COM)、株式会社JTB、株式会社テレビ東京コミュニケーションズ、株式会社ドウ・ハウス、株式会社ホンモノ・ジャパン、ヤフー株式会社

会員企業・団体(12社・団体):

一般社団法人大丸有環境共生型まちづくり推進協会(エコツツエリア)、株式会社CAMPFIRE、キリン株式会社、KDDI株式会社、株式会社さとふる、株式会社津々浦々、大日本印刷株式会社、株式会社ビズリーチ、株式会社扶桑社、株式会社マクアケ、一般社団法人モテパパLAB、株式会社LIFULL、株式会社リクルートジョブズ

参加企業・団体(4社・団体):

自然電力株式会社、ひめくら協同組合、山田水産株式会社、株式会社綿谷製作所

後援: 内閣府、農林水産省、経済産業省

<ふるさと名品オブ・ザ・イヤー 2018 募集要項>

募集期間 : 2018年10月1日(月)~2019年1月11日(金)

応募方法 : 公式WEBサイト(<https://furusatomeihin.jp/>)よりエントリー

お問い合わせ先: furusatomeihin@jtb.com

【ふるさと名品オブ・ザ・イヤー 2018 地方創生大賞、地方創生賞】

それぞれの名品や、名品をめぐる人材・取組が、どれだけ地方の変革に向けた機運を醸成し、その実現に成功したかという観点から選考・表彰する賞。「ヒト」「モノ」「コト」の3つのカテゴリごとに地方創生賞を3つずつ用意し、それぞれのカテゴリの最高位を地方創生大賞とする。

応募条件 : 本年12月頃までに、地域の特徴を生かした最近3年を目安に新たに販売・発表された名品を対象とします。ただし、販売・発表から数年経てもまだまだ認知のないコト・モノであれば受賞可能と判断する予定です。

選考フロー : 一次審査・二次審査・最終審査の三段階の審査を行います。

授賞内容 : 「ヒト」「モノ」「コト」の3つのカテゴリごとに地方創生大賞3点と地方創生賞6点を授賞

【ふるさと名品オブ・ザ・イヤー 2018 政策奨励賞】

ヒト・モノ・コト、それぞれの見地からの審査では見落とされがちな、政策的見地から意義があると思われる候補を選出。その中から、地方創生を政策的に推進する上で、特に表彰に値すると思われるものを政策奨励賞とし、その中でも最高位を政策奨励大賞とする。

【受賞者の権利】

- ① 受賞名品は、販促機会に「受賞ロゴ」を使用できます。
- ② 各事業者の特徴を生かした販促機会が(ECサイト無料掲載など)提供されます。(予定)

<報道関係の方のお問い合わせ先>
ふるさと名品オブ・ザ・イヤー実行委員会事務局
EMAIL: furusatomeihin@jtb.com
時間: 月～金9:30-17:30(土日祝 休業)